

東京の教育

復刊第二号

東京都教師会発行

(事務局) 横浜市都筑区茅ヶ崎南四ノ十四ノ一ノ三二〇

「コミュニケーションの大切さ」

林田昌子

私は千葉県の県立高校勤務ですが、十二年ほど前に県立図書館に異動を命ぜられ、五年勤務した後また県立高校に戻りました。戻った先では一年担任をまかされ、久々の現場、校内の地図も頭に入っていない状態で新入生四十名と向き合った時、何を話すべきか一瞬迷ったのですが、素直に「今」の気持ちを言ってみよう、と思えました。自分はここ数年間図書館にいて「学校の仕事」、先生の仕事「を少し忘れかけていること、新しい職場で知らない人ばかりで結構不安なこと、でも自分のクラスが持っていて嬉しいこと、入学式前日、どんな生徒に会えるのか本当にわくわくしたこと。そして最後に「みんなに会えて嬉しいです」と素直に自分の気持ちを伝えると、教室の空気が一変したのを感じることができました。それ以降は、クラスの生徒はおおむね仲良く、担任との関係も良好、偏差値は低いかいけれど落ち着いて勉強も良く頑張り、文化祭では部門賞をとる自慢のクラスになりました。私としては、これは入学式の日に言った最初の言葉が魔法のように効いた、と信じています。実際、生活していく中でそのような

気持ちをじわじわ伝えるのも良いですが、時には言葉にして照れくさくても言ってみると、生徒の心に影響する事も大きいのだとその時思いました。

生徒同士のコミュニケーションも年々たなくなっていますが、今は教師間でも時々意思疎通が難しいと感じることがあります。それゆえ、コミュニケーション重視の教科指導がうたわれ、さらに千葉県の目標申告の中には「連携・協力」の項目が新たに追加され、どこを何をどう「連携・協力」していくか書くことになったのでしょうか。本来これは当たり前のことであり、連携・協力なくしては学校経営は成り立たないものだと思いますが、実はコミュニケーションがうまくできない社会になってきているようです。SNSの発達で多くの人とコミュニケーションできる時代なのにとっても不思議ですが、人と人とのつながりをアナログ的に重視した教育が今本当に必要ななっていると思います。

(平成29年2月26日 会員)

再考

河村幹雄の教育論

佐藤健二

河村幹雄と聞いてすぐにその人物を思ひ出す

すことのできる人は、今は少ないであらう。日本教師会また東京都教師会の事務局を長くお務めになつた林田孝先生は、生前河村幹雄の教育論を高く評価し、その思想普及に尽力されていらつしやつた。私も林田先生から初めてその名を聞いたのであり、また先生からその主著である『名も無き民の心』(昭和九年 岩波書店)や、先生の御尽力により覆刻された『日米不戦論』(原本は昭和五年海軍研究社より出版。平成十七年覆刻、雅社から出版、発行者は素行會)などを頂戴したりしたのであった。

たまたま先日、鎌倉で行つてゐる小林秀雄『本居宣長』の読書会の場で、小林が『古事記伝』研究書として「私が教示を得た」唯一の書として紹介してゐる『本居宣長の研究』の著者笹月清美氏が、河村幹雄博士の娘婿であるといふことが話題となつた。その時、私はすぐに林田先生のことを思ひ出し、家に帰り、久しぶりに先生から頂いた『日米不戦論』を繙いてみた。頂いた時に、恐らく目は通したのであらう、所々に傍線が引いてあり、読んだ痕跡はあるのだが、当時は目の前の仕事に追はれ、深く考へることもないままに、やがて書架の片隅に積んだままになつてしまつてゐた。今改めて手に取つて、林田先生の「編輯後記」などを読んでみると、先生がなぜこの本の覆刻に情熱を傾けられたのか、その思ひが今となつてよく解るのである。

この「日米不戦論」は、昭和二年に海軍の

呉鎮守府で為された講演である。つまりまだ日本がモガ、モボなどとアメリカ流のフアツションに浮かれてゐた時代になされたものである。河村博士は、既にその時点で、日本は精神的にアメリカに敗北しつつあるといふ認識を持たれてゐたのである。林田先生の要約によれば、「アメリカニズムの侵略によつて日本精神は崩れつつある、精神の戦に於て、日本はアメリカに敗れてゐる。二千五百年來養ひ來つた日本精神に目覚め本来の日本に帰れば、戦はずして日本はアメリカに勝つことが出来るといふのである（これが「日米不戦論」の主意—佐藤注）。古典教育によつて高い識見と深い洞察力を養ひ、英学（英語ではない）によつて世界を知り、己を映す鏡とすれば鬼に金棒である。」といった内容である。恩賜の銀時計組で、紛れもない理系秀才であつた河村博士が、なぜ古典教育と英学を取り上げたのか。その意味は重い。自国の歴史・文化によつてしつかりと足下を固める。英学を学ぶことにより、日本精神を侵食しつつあつた敵の姿を見定める。視野の拡大とともに、比較により自らの姿をより正確に知る。つまり内からも外からも確乎たる日本人としての精神を確立せよといふことではないか。

河村博士の言は、地学といふ狭い専門領域を超え、今大学で滅亡寸前（否、既に滅亡したか）の教養或いは哲学・思想といったものから発する思索者の言であり、万人が耳を傾けるべき言葉である。その価値は、九十年を

得た今日でも少しも薄れてゐない。大正十二年の「国防の将来」といふ講演では「国防は国民精神によつて国民精神を守る」と、「教育は国民精神によつて国民精神を次代に伝えること」を訴へてゐる。

さて翻つて今日、我が国を取り巻く国際環境は極めて危ふい。にも拘はらず、国防意識など死語の如き状態である。国民精神を守れと言はれてどれだけの人が反応するか。これでは、河村博士の不戦論とは逆方向に、戦はずして我が国は敗れるのではないか。

改めて河村博士の教育論に耳を傾け、その再評価に尽力された林田先生の思ひを受け止めるべき秋が来たやうである。

(会員)

□短信短評□

明治天皇昭憲皇太后をお祀りする明治神宮の御神域を覆ひ尽くす杜は、殆どが御創建の時に植ゑられたものである。造園学者の本多静六により、森林の天然更新を計算し百年二百年後を見据ゑて植栽された。

御聖徳を慕ひ奉る全国の国民から三百種の苗や若木が寄付され、その数は十万本に上つた。各地の青年団の勤勞奉仕により事業は進められたといふ。今や鎮守の杜は自然林として鬱蒼と繁つてゐる。

大正九年の御造営から間もなく百年、そして来年は明治百五十年になる。(ふ)

日本教師会第五十七回教育研究全国大会

期日 平成二十九年八月五日(土) 六日(日)

会場 「ホテル アウイーナ大阪」 三階 二上の間

(大阪市天王寺区石ヶ辻十九の十二)

06-6772-1141

研究主題 「道徳科の授業のあり方と課題」
日程

五日 1 開会式(12時)

2 記念講演 渡辺毅先生

(皇學館大学准教授)

3 実践発表(幼、小、中、中)

4 指導講評 鈴木克治先生

(京都市教育委員会指導主事)

5 夕食会(17時30分)

六日 定期総会(9時~12時20分)

(前号でお知らせした会場は右記に変更
なっています)
皆様のご参加をお願いします

◎「東京の教育」への会員の皆様からのご投稿をお待ちしています。

事務局アドレス(佐藤)

komasato@juno.ocn.ne.jp